

## サマリー

### アジア・太平洋及び大西洋市場の天然ガス事情と LNG 需給動向<sup>1</sup>

戦略・産業ユニット

石油・ガス戦略グループリーダー

小林 良和

2008 年秋以降、世界の LNG 需給バランスは大きく緩和方向に転じた。需要面では金融危機の影響による世界の天然ガス消費への影響、供給面では相次ぐ新規プロジェクトの稼働開始や北米地域で進む非在来型天然ガス開発の進展といった要因が、この需給バランスの変化を演出した主な要因であり、今後少なくとも短期的には LNG 需給バランスは緩和状態が持続する可能性が高い。

現在の LNG 情勢が大きく変化を見せる中で、今後の需給展望において注目すべきポイントとしては、短期的にはまず米国の LNG 需要、及び中国の LNG 需要の動向、2011 年にかけて稼働を開始する新規プロジェクトからの供給の輸出先といった要因が重要である。中長期的には、産ガス国間の連携強化の動き、金融市場の信用収縮の中長期的な新規開発投資への影響、中東地域におけるガス不足の問題、先進国で進む低炭素化社会に向けた取り組みの影響などといった要因が今後の LNG 需給にも大きく影響すると考えられる。

お問い合わせ先: [report@tky.ieej.or.jp](mailto:report@tky.ieej.or.jp)

---

<sup>1</sup> 本調査は経済産業省からの委託調査である平成 20 年度石油天然ガス開発利用促進調査で実施した調査内容の一部であり、このたび経済産業省からの許可を得て公表することが出来るようになった。経済産業省関係者のご理解・ご協力に厚く謝意を表す。